

こいでがわかせんかいしゅうかんれんいせき
ぐん

小出川河川改修関連遺

跡群遺跡群

茅ヶ崎市七堂伽藍跡・茅ヶ崎市西方
A遺・寒川町岡田南河内遺跡・寒川
町大曲五反田遺跡

調査期間 20010901～20060915

所在地 茅ヶ崎市下寺尾
高座郡寒川町岡田・
大曲

時代 縄文(前期)
弥生(後期)
古墳(前期)
奈良～平安時代
中～近世



概要

小出川河川改修関連遺跡群の調査は、茅ヶ崎市下寺尾の小出川にかかる寺尾橋周辺の河川改修事業にともなう遺跡の発掘調査で、小出川の両岸にあたる事業用地内に所在した茅ヶ崎市七堂伽藍跡(しちどうがらんあと)、同市西方A遺跡(にしかたAいせき)、寒川町岡田南大河内遺跡(おかだみなみおおこうちいせき)、同町大曲五反田(おおまがりごたんだ)が調査対象となりました。平成13年度から継続している発掘調査では、古代を中心に縄文時代から中・近世までの遺構・遺物が発見されています。

縄文時代の遺物は台地の縁辺部から集中して出土しました。台地の上には縄文時代前期の貝塚として知られた西方貝塚があり、過去の調査で竪穴住居の跡や貝塚が発見されています。

弥生時代の調査では当時の川の跡を発見しました。川跡からは弥生時代後期の土器とともに、エブリなどの木製農具が見つかりました。これらの遺物は近隣で水田耕作を行っていたことを示すものです。建物への出入りに使用したと考えられる棒梯子(ぼうばしご)も見つかっています。

古代においては100軒以上の竪穴住居跡や東西南北に整然と配置された掘立柱建物跡を発見しました。計画的に配置された建物群は、一般的な集落ではなく公的な性格を有する施設

の可能性を示すものです。隣接する古代寺院の下寺尾廃寺(しもてらおはいじ)や古代の役所である高座郡衙(たかくらぐんが)に関連する集落と考えてよいでしょう。出土した遺物も、土師器・須恵器に加え、釉薬のかかった焼き物(灰釉陶器や緑釉陶器)、瓦、銅鈴など、通常の集落では見られない遺物が、多数出土しています。また古代の川跡も発見されました。川跡からは土師器や須恵器とともに鍬(くわ)や皿、曲げ



▲七堂伽藍跡平成16年度調査区



▲七堂伽藍跡掘建柱建物址



▲七堂伽藍跡出土鬼瓦(おにがわら)

物(まげもの)、人形(ひとがた)、刀形(かたながた)などの木製品が出土しています。人形(ひとがた)、刀形(かたながた)はまじないに使用されたもので、貴重な発見となりました。

中世では当時の川の跡とこれと直行する溝を検出しています。また当時大規模な地形の改変が行われた痕跡もうかがわれました。この時代の遺物としては青磁や白磁などの輸入磁器、瀬戸や常滑、渥美で焼かれた国産陶器が出土しています。

近世の遺構・遺物はごくわずかです。遺構としては溝、土坑、道跡、川跡が検出されました。遺物は国産の陶磁器が少量出土しています。近世に入ると遺跡内に人が暮らすことはなくなり、そのほとんどが耕地に変わったものと推定されます。



▲七堂伽藍跡出土灰釉陶器(かいゆうとうき)